

# フードバンクかながわ 通信

「もったいない」を「分かち合い」「ありがとう」へ



## 特集

### 新型コロナウイルス感染症拡大防止で地域でおこっていること 4

フードパントリー  
活動が増加

#### 学生に食品支援

横浜市社会福祉協議会は、新型コロナウイルス感染症対策等の影響により困難な状況におかれた横浜の若者に「食」と「地域の支えあい」を届けたいと目標50万円の寄付を募り、市内のひとり暮らし学生を中心に食品の提供を行っている。第1回目は定員100名に応募が殺到し170名で一旦募集を停止した。横浜国大、関東学院大など大学の協力が得られたことが大きい（1回目5/22健康福祉総合会館、2回目は6/2横浜国大校内で実施）。フードバンクかながわから、米、レトルト、缶詰、カップ麺などを提供。寄付購入した米と併せひとり2袋ずつの食品を渡した。両親の仕事がなくなった、家族が多く苦しい、留学生等も事前登録に参加した。

相模原市ではJA、市民団体と6月1日～30日（日曜除く）9時～17時に学生への食品支援を実施。パッケージされたものではなく、自分で必要な品を選ぶスタイル。初日246名、2日目100名超が訪れ、市職員は日々フードバンク倉庫に取りに来る状況が続いている。



上右:相模原市  
左:横浜市社協

災害  
食料  
支援  
始めます

#### 希望者増えるシングルマザー支援/粉ミルク要請

横浜市内で活動するフードバンク横浜は、主にシングルマザー50世帯の登録を受け食支援を行ってきた。新型コロナ禍で、食品の受け渡しを行ってきた場が閉鎖となるという事態に見舞われたが支援を続けている。登録以外に緊急に必要という希望者が2月の15件から3月50件、4月は70件（うちシングルマザー世帯51件）に急増。

また相模原市のフードバンク・フードコミュニティからも母子世帯への粉ミルクの緊急要請がフードバンクかながわにきた。

粉ミルクについては、区社協、県社協から、夫がコロナで就職が見送りとなった、外国につながる世帯が困っていると、緊急支援要請があった。

#### 奨学生に食品支援

（一財）神奈川ゆめ社会福祉財団は、県内の高校生を毎月1万円の奨学金・学習支援・体験支援でサポートをする。現在サポートする34名のうち8割がシングルマザー世帯。お母さん訪問で食品をお渡しすると「日頃甘いものを食べることが少なくてうれしい」と言って頂いたという。今回の新型コロナ緊急事態宣言では、高校生と親の双方に就労・アルバイトの場の減少、あるいは仕事があっても健康リスクへの不安もある。アンケートを実施すると全員から食支援の希望があり、フードバンクかながわからの提供食品に手紙をつけて宅配便でお届けした。



#### 拡がるフードパントリー(食品提供)活動

緊急事態宣言下では、休校、公的施設が閉鎖となり、こども食堂の活動も制限されている。こどもの一日の栄養確保に給食の果たす役割は大きいですが、給食がなくなり、こども食堂の活動も制限された。こどものことを気にしながら、こども食堂は、休止、弁当、食品提供、食堂継続か、を迫られている。フードバンクかながわでは4月に食品を提供したこども食堂に簡単なアンケートを実施し実態を聞いた。

#### こども食堂アンケート結果 30団体中25団体より回答

	3月	4月	5月
食堂	1	1	2
食品提供	12	18	18
弁当	4	5	5
休止	5	3	--
他	3	3	3

食品提供活動が多く、市民が取り組みやすい活動と分かった。フードパントリー(食品提供)をフードバンクの一つとして、相談にのり、旗を作成するなど支援していく。

(5月は予定含、他は保管・おやつ等)



食品提供中

フードバンクかながわ

#### 寄稿

#### 「届けるのは食品と絆です！」

～キッズカフェ杉田の活動～

久保田 顕 (杉田キリスト教会牧師)

私達は、4年前から杉田キリスト教会を会場にこども食堂を開催してきました（HPあり）。今年の3月から状況が収束するまでは、フードパントリー（食品配送）の活動を始め、こども食堂を開催していた時に参加者からいただいていた電話番号を頼りに、「フードバンクかながわ」様から寄付された食品や、近隣の方から寄付されたマスク等を、月に1～3回（15～25世帯ずつ：40～70人）ほど各家庭に届けています。

このコロナ禍で多くの人が生活に追われ、孤立する家庭が増えている中、「何かあったらいつでも相談してください。」という声かけを大切に訪問し、困難な毎日乗り越えるのに必要な「食品と絆」をお届けできるよう、活動を続けています。



#### 社協の相談窓口より

藤沢市社協の相談窓口では、緊急小口資金特例貸付申請が4月から5月半ばで800件超。予約で行っていたが、徐々に増えてきたため、説明会方式を選択。100名以上の会場で10名ずつ一日、4、5回開催。緊急小口資金のほかに総合資金（単身世帯15万円×3か月分 計45万円 据え置き1年10年で返済）も実施している。感染防御から郵送も可としており今後さらに増えることが予測される。（市社協は窓口で、審査は県社協。）

比較的富裕者が多いといわれているエリアからの申請も増加。フリーランサーがコロナ禍の影響を受けている。情報を取るスキルや意識は十分にあり、相談はあまり必要ではないが、困ったと言ったことがない人々が多いという。

お問い合わせ

公益社団 フードバンクかながわ [info@fb-kanagawa.com](mailto:info@fb-kanagawa.com)

発行責任：藤田 誠

236 - 0051 横浜市金沢区富岡東2-4-45

Tel. 045-349-5803



QRで  
ホーム  
ページ  
へ



## 基本情報 2020年度の累計 (2020/5/31現在)

◇寄贈された食品 34.9トン	◇提供した食品 362回 28.4トン
事業者寄付 69回 32.9トン	行政・社協 102回 6.2トン
フードドライブ 75回 2.0トン	地域フードバンク 61回 9.4トン
	子ども食堂等 136回 8.6トン
	施設・福祉・病院 63回 4.0トン
	(内コロナ対応医療 9回 883kg)
	調整0.2トン

### 合意書締結団体

寄贈締結団体 97団体
提供締結団体 171団体
行政・社協 45団体
市民団体 126団体
(子ども食堂・居場所・施設・福祉関係含む)

### 賛助会員寄付状況 設立以来の累計

団体会員 118団体
486口 486万円
個人会員 214人
833口 760千円
寄付金累計11,646,443円

(2019年度実績 寄贈97トン2295回、提供92トン1504回 寄付金11,612,313円)

## 5月の寄贈22トン、提供16トン 過去最高に。

### 【寄贈食品】 22トン

○事業者寄付  
コロナ禍におけるイベント中止、給食休止等により余剰食品が生じ、食品ロス削減対策を進める農水省は積極的に情報提供実施。フードバンクかながわも多くの提供を受けている。

5月の寄贈は、ピーマン・鍋つゆ・カレールー1万個4.2トン、デニッシュ・大豆・ヒジキ・ドライパックの大豆等13,200個(日生協)、カフェラテ・お茶3120本(ココ・コーラ)、卵スープ3,950個(日本農産工業)等多数。

○フードドライブ、(市民寄付)

5月は特に毎日のようにフードドライブ品が提供され1.5トンの実績。5/1より金沢区役所で常設ボックスが設置された。横須賀市の学生支援報道で米不足が紹介され、個人からの米提供につながった。(金沢区)ユーコープの常設ボックス、パルシステムのサンプル品の提供、メーカー各会場で「タオル一本運動+フードドライブ」を実施し、まず三浦半島労福協から届けられた(メーカーポスター)



### 【提供食品】 16トン

行政・社協・地域フードバンク・子ども食堂(現在は食品提供活動が主な活動)からの要請が引き続き増大。米は4~5月で4.7トンでコロナ以前(1月は1.5トン)に比べ150%増。

釜利谷ケアプラザ、二宮子ども食堂、鶴見区学習支援(横浜北YMCA)に提供開始。緊急個人パッケージを旭区社協、県社協に実施。ミツハシライス、ユーコープからの提供に需要が追いかず、在庫が消える事態になったが、個人寄付、給食用寄付でのいだ。6月に生活クラブ連合会から米4.2トン提供、パルシステム神奈川ゆめコープのフードドライブ、ユーコープの通常1か月のフードドライブを7~8月2か月の実施予定に期待。



## 広がる分ちあい

○山口農園山口敏雄さん洋子さん 県産米のはるみ特A玄米で300kg寄贈。ディズニー系のレストランに収めているが、閉鎖となり、おいしいうちに食べてもらおうと寄贈を決めた。ネットで寄付先を探し公的などところにつながっていると考えフードバンクかながわを選択。



○180kgのお米をネットで購入し提供してくれた中島さん。1人1袋限定商品だったが、寄付することを説明し6袋ゲットできたと話す。



○日本農産(株)より、本社のある西区でコロナウィルス禍下にあっても休まず開園している保育園にヨード卵・光ふわふわたまごスープ2万食を寄贈したいとの連絡があり、西区社協を通じ保育園7か所に790食のたまごスープを提供。



○開成町から2小学校の給食米649kgの寄贈があった

## 今月のメッセージ

### 理事 鈴木 紀子さん

(パルシステム神奈川ゆめコープ 理事)



新型コロナウイルス感染拡大によって、私たちの暮らしに不安が広がり、社会・経済に様々な影響を与えています。緊急事態宣言が出された後も、生活協同組合神奈川ゆめコープは日々の暮らしを支えるため、宅配事業においては、毎週の配達を継続していくための施策を行っています。

5月25日に緊急事態宣言が解除となりましたが、すぐに元の日常に戻ることは出来ず、新しい生活様式が必要といわれています。このような社会に大きな混乱があるときには、社会的・経済的に弱い立場にある方々への影響も大変大きくなります。国や自治体などから様々な対策や支援もありますが、フードバンクの活動は、共助の心によって、今まさに困っている方々の暮らしを支える大切な活動だと思います。

今後も組合員の皆さんをはじめ多くの方々に引き続きフードドライブを呼びかけていきたいと思っています。

## 食品ロス削減



給食用牛乳が余剰となりLL牛乳にして提供。ほうとうどんはすぐに食べられるカップ麺、焼きピーマンは若者にも人気。



鍋スープの素、ひじきドライパック、卵スープ、子どもの日のこいのぼりパッケージチョコレートなど次々に大量に入荷。

## 倉庫も変わる

増える精米に耐えきれず精米機一台が故障。JA中央会のお世話で購入！



米自動計量機が導入され、精米後の小袋づめの時間が短縮！日生協助成金活用。



倉庫は満杯。増築を計画中。